



学校図書館だより



2015年11月20日
横浜市立森の台小学校
校長 田中 公明
図書主任 清水あゆみ
学校司書 近江弥穂子

No. 7

11月は「横浜市民の読書活動推進月間」。森の台小学校でも11月9日から28日を読書月間として、様々な取り組みを行っています。子どもたちだけでなく、おはなしポケットさんと図書ボランティアさんによる企画もあり、子どもたちがとても楽しんでいます。緑図書館など、学校以外の場所でも、本に親しむための活動を行っているので参加してみるのもいいかもしれませんね。子どもも大人も、みんなで読書を楽しめたらいいと思います。

がっこうとしょかん 学校図書館からのお知らせ

- 12月は人権月間です。今年のテーマは『いじめ』です。学校図書館に本が展示されるので是非手にとってみましょう。
- 最近本の病院の入院患者が増えています。本を大事にしましょう。
- 本のしおりは中にはさんで返しましょう。

せんせい 先生のおすすめ本

佐々木先生（5-5） 植木先生（4-1）
「いのちをいただく」 バムとケロシリーズ
内田美智子 文 島田ゆか 文絵

田崎先生（4-2） 塚原先生（4-3）
「まちのいぬといなかのかえる」「しあわせってなあに？」
モー・ウィレムズ文 葉祥明 文

学校図書館にあります

学校図書館にあります

なにげなく食べているご飯。何気なくいっている「いただきます」のあいさつ。ひとが「食べる」ということがどういうことなのか、考えることのできる本です。

ほのぼのとした絵が大好きです。

ある春の日、まちのいぬが初めてやってきた田舎で一匹のかえるに出会います。二匹は友達になり、犬はいなかに来るたびに帰ると遊びます。四季の移り変わりとシンプルだけど心に響く絵本です。水彩画も美しいです。

「きみのしあわせってなあに？」と聞いてまわる犬のジェイク。しあわせってなんでしょう？ジェイクが大好きなニューヨークのセントラルパークでしあわせを探します。

トピックス ～江戸川乱歩（えどがわらんぽ）～

江戸川乱歩（本名：平井太郎）は1894年（明治27年）三重県名賀郡名張町（現・名張市）に生まれました。ペンネームは尊敬するアメリカの推理小説作家であるエドガー・アラン・ポーからもじったものです。早稲田大学政治経済学部を卒業後、貿易会社社員や古本屋、しな蕎麦屋など多くの仕事を経験して作家生活に入りました。1923年（大正12年）「二銭銅貨」でデビュー、初めの頃は欧米の探偵小説に強い影響を受けた本格探偵小説を書き、日本探偵小説界に大きな足跡を残しました。乱歩といえば、有名なのが名探偵明智小五郎と小林少年率いる少年探偵団、そして明智探偵と少年探偵団の宿命のライバルである怪人二十面相です。両者が対決するこのシリーズ（江戸川乱歩 少年探偵シリーズ）は、児童文学のベストセラーとして非常に有名で、かつ広く親しまれています。学校図書館にも全巻をそろえていますので、是非読んでみてください。

乱歩が住んでいた屋敷は、立教大学と隣接していたため、その縁で現在は立教大学によって「旧江戸川乱歩邸」として保存されています。一般公開に関しては常時という訳ではなく、不定期ですが一般公開もされている様です（興味のある方は立教大学サイトの「旧江戸川乱歩邸」ページをみてください）。乱歩の寄付を基金に設立された江戸川乱歩賞は推理作家への登竜門として広く知られており、受賞者には乱歩の胸像が贈呈されます。

今月のおすすめの本

「兎の眼」

灰谷健次郎作

一言もしゃべらない鉄三のことはハエの話から始まる。ビンの中にいた13匹のハエをカエルのエサにしたクラスメイト。鉄三はカエルを引き裂き踏みつぶした。このハエ事件をきっかけに新任の小谷先生は鉄三の本当の気持ちを知っていく・・・

「星座神話と

星空観察」

子供の科学

サイエンスブック

森の大王につかまれしっぽがのびてしまった大熊（おおくま座の物語）など、星座の神話や物語を、たくさんのイラストや写真を用いてわかりやすく紹介している本です。

「らいおんみどりの日ようび」

中川李枝子作

トランプ遊びとキャベツが大好きな緑のライオン、らいおんみどり。「～しないとたべちゃうぞ!」とあるごとに「たべちゃうぞ」が口ぐせです。そんならいおんみどりは、ネコの姉さんのトロを団長にサーカスを始めますが・・・

編集後記

11月2日に、神奈川県立図書館と鶴見大学より森の台小学校に解体新書などの貴重書がやってきました。6年生が1クラスずつ大学の先生や院生、県立図書館の方に説明をしていただきながら、実際に貴重書に触ることができました。また、粘葉装と和本も作りました。写真などHPに掲載していますので是非ご覧ください。

11月11日の読書集会では図書委員が『そらまめくんのベッド』とほくは王さまシリーズの『しゃぼんだまのくびかざり』の劇を発表してくれました。キレのあるダンスあり、笑いありの素晴らしい舞台でした。その日すぐに、どちらの本も貸出しされ、9日から始まっているスタンプカードやクラス対抗読書マラソンもそれぞれが取り組んでくれてとてもうれしいです。読書の秋です。「感動は心の扉を開く」、椋鳩十さんの言葉ですが（あすなろ書房より同名の著書もあります）、人は感動により心を動かし、それからの行動を変えていくとあります。本にはいろいろな感動があります。たくさん本を読んでたくさんの感動に出会ってほしいと思います。

学校司書 近江